

史料調査研究室

史料調査研究室では、郷土資料について研究しています。
郷土資料とは、郷土「みやざき」を知り、研究するためのあらゆる時代を通じた資料です。

年3回の特別資料展を開催しています

県立図書館には、江戸時代に書かれた文章（古文書）や絵地図、掛け軸など大変貴重な資料が所蔵されています。これらの資料は、普段は多くの人に見ていただくことはできませんが、年3回程度の特別展示を計画して県民の皆さんに紹介しています。平成16年度は、「宮崎県の学校教育資料展」、「ふるさとみやざきの食と風物展」、「日向神話と民俗芸能展」を開催して多くの皆さんにご覧いただきました。

2つの講座（宮崎県地方史講座・古文書解読講座）を開催しています

宮崎県地方史講座

宮崎県の歴史や民俗について研究されている方々を講師に迎えて、年4回開催している講座です。

平成16年度は、「バベルに挑む」、「日向の盲僧」、「近世史料にみる都萬神社」、「続・名字のルーツをたどる」の演題で開催しました。

受付は、当日会場で行います。どなたでも受講できます。会場はいつも県立図書館で行いますが、図書館以外の関連する地域で実施される場合もあります。



宮崎県地方史講座「日向の盲僧」

古文書解読講座

「江戸時代など古い時代に書かれた文章を読めるようになっていただき、宮崎県の歴史に対する興味、関心を高めていただきたい」と年5回開催している講座です。テキストは県立図書館が所蔵している古文書です。

受講料は無料で、定員は50名です。平成16年度は県文化財保護審議会会長の甲斐亮典先生のご指導で、佐土原から戊辰戦争に参加した人々の記録「東海道先鋒戦争之次第」の解読練習を実施しました。



特別資料展「ふるさとみやざきの食と風物展」

貴重な資料「佐土原藩嶋津家江戸日記」を翻訳・刊行しています

県立図書館が所蔵している江戸時代の古文書「佐土原藩嶋津家日記」を皆さんに読んでいただきたいとの趣旨で、毎年筆耕・翻訳して刊行しています。

現在、「アーカイブス」といって、古い時代の記録を保存する動きが全国的に展開されています。「佐土原藩嶋津家日記」は、江戸と佐土原で書かれたもので、当時を知るうえで貴重な記録です。これまでも県立図書館では、多くの古文書を翻訳・刊行していますが、これも図書館の大切な事業の一つです。国内はもちろん、海外からの問い合わせもあります。平成16年度は、江戸で書かれた「佐土原藩嶋津家江戸日記（六）」（享保12年・13年の分）を刊行しました。

「児童図書室」より

児童図書室では、子どもたちに本を手渡すために、心に残る本との出会いの場であるために、さまざまな活動に取り組んでいます。

2004年度は、4月の子どもの読書週間や10月の秋の読書週間に、えほん展や記念講演会、おはなし会などを開催してきました。

また、毎週水曜日と土曜日の午後3時から「おはなしのへや」で絵本の読み聞かせや紙しばい、ストーリーテリングを行っています。

「読書は心の冒険」です。

子どもたちは豊かな想像力で本の世界を楽しみ、生きていく上で大切なこと、知恵や勇気、友情などを主人公と一っしょに学んでいきます。そのためには、子ども達が子ども時代のそれぞれの時期にお気に入りの本と出合えるような、豊かな読書環境をつくってあげることが大切です。児童図書室でも、子どもの読書環境を豊かにするために、お手伝いをしていきたいと考えています。

